

2022年12月26日-2023年1月1日

## 列王第二 20-21章 41番の歌と祈り

開会の言葉（1分）神の言葉の宝 「祈りはエホバを動かした」（10分）

宝石を探し出す（10分）

王二 21:13 私は、サマリアに使った測り綱をエルサレムの上に伸ばし、アハブ家に使った水準器(\*下げ振り)を使う

。そして、鉢をきれいに拭って伏せるかのように、エルサレムを拭い去る

エホバがエルサレムに対して水準器を使った、とはどういう意味か。

(洞-1 1247／水準器) 水準器は建物をきちんと建てるため、またはある建物が存続させるにふさわしいかどうかを検査するために用いられることがあります。エホバは「サマリアに使用された測り綱と、アハブの家に使用された水準器とを」心の頑迷なエルサレムにあてがうと予告されました。神はすでにサマリアとアハブ王の家を測られましたが、それらは道徳的に悪かった、つまり曲がっていたので、どちらも滅ぼされることになりました。同様に、神はエルサレムとその支配者たちを裁き、その邪悪さを暴露し、同市に滅びをもたらされるのです。これらの出来事は西暦前607年に実際に生じました。(王二 21:10-13; 10:11) エルサレムにいた様々な邪悪なほらふきたちや民の支配者たちは、自分たちに臨もうとしている災いと、「わたしは公正を測り綱とし、義を水準器とする」というエホバの宣言をイザヤを通して知らされました。眞の公正と真実の義の規準はだれが本当に神の僕で、だれがそうでないかを明らかにし、保護または滅びのいずれかをもたらすことになりました。—イザ 28:14-19「自慢する者たち、エルサレムでこの民を治める者たち、エホバの言葉を聞け。15 あなたたちはこう言う。「われわれは死と契約を結び、墓\*と協定を交わした(\*と共に幻を見た)。激流が通り過ぎる時も、われわれの所までは来ない。われわれはうそを避難所とし、偽りの中に身を隠したのだ」。16 そのため、主権者である主エホバはこう言う。「私はシオンに、試された石を土台として据える。強固な土台の貴重な隅石である。信仰を抱く人は動搖する事がない。17 私は公正を測り綱とし、正しさを水準器(\*下げ振り)とする。ひょうが偽りの避難所を一掃し、水が隠れ場を押し流す。18 あなたたちの、死との契約は解消され、墓\*との協定は無効になる。激流が通り過ぎる時、あなたたちは押しつぶされる。19 それは通り過ぎるたびに、あなたたちを押し流す。来る朝も来る朝も、昼も夜もそれは通り過ぎる。人々は恐怖を抱いて初めて、聞いた事柄を理解する(\*人々は理解すると、途方もない恐怖を感じる)」

今週の範囲からエホバについて何を学べたか。宣教でどんな点を活用できるか。ほかにどんな宝石を見つけたか。

(20:12-13)の記述からは、ヒゼキヤがバビロニア人の使者たちに宝物庫をことごとく見せるという失敗をしたのは、病気が回復して少し調子に乗ったか、気を抜いてしまったためと感じましたが、並行記述の代二 32:26にはヒゼキヤの心が傲慢になったためとはっきり述べられている。

この事実は、聖書の宝の所在の深さや調査方法や教訓を引き出す大切さを教えてくれる。これからもエホバが喜ばれる謙遜さを一層培うためにも聖書を注意深く調べて行きたいと思う。

聖書朗読（4分）王二 21:1-15（教励 第10課）

## 野外奉仕に励む

最初の話し合い（3分）話し合いのサンプルの話題に沿って話す。区域でよくある反対意見に対応する。（教励 第4課）

再訪問（4分）話し合いのサンプルの話題に沿って話す。公式ウェブサイトを紹介し、jw.org コンタクトカードを渡す。（教励 第6課）

聖書研究（5分）暮 レッスン 08 副見出し 6（教励 第19課）

## クリスチャンとして生活する

47番の歌

「私たちの祈りはエホバにとって貴重なもの」（15分）討議。「祈りをいつも大切にしてきました」の動画を再生する。

会衆の聖書研究（30分）暮 レッスン 32 副見出し 5-6, まとめ, 復習, 次のステップ

閉会の言葉（3分）

142番の歌と祈り

（王二 20:1-21:26）その頃、ヒゼキヤは病気になり、死にそうになっていた。アモツの子である預言者イザヤが来て言った。「エホバはこう言っています。『家人の人たちに指示を出しなさい。あなたは回復せず、死ぬからだ』」。<sup>2</sup>それでヒゼキヤは顔を壁に向け、エホバに祈り始めた。<sup>3</sup>「エホバ、お願ひです。どうか、思い出してください。私が心を尽くして忠実にあなたに仕え\*、あなたから見て良いことを行ったのを」。そしてヒゼキヤは激しく泣きました。<sup>4</sup>イザヤがまだ庭に出ていかないうちに、エホバがイザヤに言った。<sup>5</sup>「戻って、私の民の指導者ヒゼキヤにこう言いなさい。『あなたの父祖ダビデの神エホバはこう言っている。「私はあなたの祈りを聞いた。あなたの涙を見た。あなたを癒やそう。あさって\*にはあなたはエホバの家に上る。』<sup>6</sup>私はあなたの寿命を15年延ばし、アッシリアの王の手からあなたとこの都市を救う。私は自分のため、また私に仕えたダビデのためにこの都市を守る』」。<sup>7</sup>イザヤは、「干しいちじくの菓子を持ってきなさい」と言った。人々が持ってきて、それを腫れ物に当てた。その後、ヒゼキヤは徐々に回復した。<sup>8</sup>ヒゼキヤはイザヤにこう尋ねていた。「私がエホバに癒やされ、あさって\*にはエホバの家に上っていけるというしるしがありますか」。<sup>9</sup>イザヤは答えた。「エホバは語ったことを実行されます。エホバからのしるしは、こうです。影が階段\*を10段進むのと10段戻るのと、どちらを望みますか」。<sup>10</sup>ヒゼキヤは言った。「影を10段進めるよりも、10段戻す方が難しいことです」。<sup>11</sup>そこで預言者イザヤがエホバに呼び掛けると、神は、アハズの階段を下った影



神の言葉の宝

## 祈りはエホバを動かした

ヒゼキヤはエホバから、 病気が治ることはないと言われた。 (王二 20:1。 イ-1 394 ページ 23 節セナケリブが最初にユダに攻め上ってきたころ、 ヒゼキヤは重病にかかります。 イザヤは、 あなたは間もなく死ぬであろうと告げます。 (イザヤ 38:1) 39 歳のヒゼキヤ王は打ちのめされます。 自分のことだけでなく、 民の将来も心配です。 エルサレムとユダはアッシリア人による侵略の危険にさらされています。 ヒゼキヤが死ねば、 だれが戦いを指揮するでしょうか。 この時点で、 ヒゼキヤには支配権をゆだねるべき息子がいません。 ヒゼキヤは熱烈な祈りをささげ、 憐れみを示してくださるようエホバに願い求めます。 —イザヤ 38:2, 3)

ヒゼキヤは、 自分の忠実な歩みを思い出してほしいとエホバに嘆願した。 (王二 20:2, 3。 塔研 17.03 21 ページ 16 節)

ヒゼキヤの祈りは、 ヒゼキヤを助けるようエホバを動かした。 (王二 20:4-6。 目 01 7/22 13 ページ 4 節) それでもヒゼキヤのように「私[は]真実のうちに、 全き心をもってみ前に歩[んで]」きましたとエホバに祈る)

私たちの祈りは、 祈らなければ行われなかつたかもしれない事柄を行うようエホバを動かすことがある。 この記述は、 諦めずに祈る上でどのように力になるか。

^(王二 20:1) その頃、 ヒゼキヤは病気になり、 死にそうになっていた。 アモツの子である預言者イザヤが来て言った。 「エホバはこう言っています。 『家の人たちに指示を出しなさい。 あなたは回復せず、 死ぬからだ』」。

クリスチヤンとして生活する



## 私たちの祈りはエホバにとって貴重なもの

エホバに受け入れられる祈りは、神殿で定期的に捧げられていた甘い香りのする香に似ています。 (詩 141:2 私の祈りが、あなたに捧げられる香のようになりますように) 私たちは、天のお父さんに愛や感謝を伝えたり、自分の心配事や願いを伝えたり、導きを求めたりすることによって、エホバとの友情を大切にしていることを示すことができます。エホバは、集会で捧げられる簡潔な祈りを崇拝の重要な部分と見ています。とはいえ、私たちが心を開き、時間をかけて個人的に祈る時、エホバはとても喜んでくださるに違いありません。 (格 15:8 正しい人の祈りは神にとって喜びである)

「祈りをいつも大切にしてきました」の動画を見て、次の質問に答えましょう。

1. ジョンソン兄弟はどんな奉仕を楽しんできましたか。

開拓奉仕、巡回奉仕などの全時間奉仕、さらに刑務所での伝道

2. 兄弟は祈ってエホバに頼ってきました。どんなエピソードがありますか。

徴兵局から兵役適任者とみなされたが、開拓奉仕をしていたので協会の法律部門から勧められるとおり、異議申し立てをした。厳しく尋問されたが、エホバに祈り助けが与えられた。キューバでの巡回奉仕中に反対勢力の兵士に銃口を向けられたが、エホバに祈り命を救われる経験をした

3. 兄弟の経験談からどんなことを学べますか。

祈りはとても大切。ジョンソン兄弟のように何をするにもまずエホバに導きを求めたり、必要な時にいつでも助けを求めるならエホバは聞いてくださる。

(祈りは大切。何をするにも、まずエホバに導きを求めている。

1923年3月26日にパナマで生まれた。1946年8月にオハイオ州クリーブランドでバプテスマを受けた。開拓奉仕を始めたのは、1947年1月。私の人生に特に大きな影響を与えた聖句がある。1つは、詩 55:22。特に大変だったのは、選抜徴兵局に呼び出された時。法律に従って登録を行い、一英つまり兵役適任者とみなされた。協会の法律部門に相談したところ、異議申し立てをするよう勧められた。正規開拓奉仕をしていたから。

異議申し立てをすると、徴兵委員会から厳しく尋問された。問題となったのは、私が、パートタイムの仕事をしていたから、それで徴兵委員会は私をフルタイムの聖職者とみなすことができないと考えた。でもその頃私は12件の聖書レッスンを行っていたので、その記録を委員会に提出した。するとこの人たちと連絡をとって本当に前と聖書の勉強をしていることを確認していいんだな、と言った。私は「どうぞ」と答えた。「エホバ、委員会が正しい決定をするよう助けてください。」と熱烈に祈った。数日後受け取った通知には4Bと書かれていた。聖職者と認められた。すぐに「エホバ、ありがとうございます。」と祈った。

キューバで巡回奉仕をしていた時、何度か兵士たちに出くわした。当時の状況は非常に緊迫していた。反対勢力の人はバティスタ政権の人を含め、誰彼構わず銃で撃った。全く躊躇しなかった。ある会衆の訪問を終えた。山の方の会衆。その後バスで移動した。通りに出ると2人の兵士がバスを止め、全員降りるよう命じた。一人一人見た後、バスに戻した。でも私を見ると「お前は動くな」と言った。ライフルを向け「お前は誰だ」と言った。ライフルを向けられたまま自分のことを説明した。兵士の一人が運転手に「バスを出せ」と言った。私は必至で祈った。そして格 9:25を思い出した。「人への恐れは畏となる。エホバに頼る人は保護される。」すると運転手は「この人は巡回監督です。怪しい人ではありません。」と言って守ってくれた。エホバが天使によって助けてくれたんだと思う。私は祈りを本当に大切にしている。私にとって欠かせないもの。

米国に戻ってからは奉仕部門からの割り当てを全時間行った。数年後家族を養うために、全時間奉仕を辞めなければならなかった。変化に順応するのは大変だった。それまでずっと全時間奉仕をしていたから。

でも全てをエホバに委ねた。1974年5月頃から刑務所での伝道が始まった。

聖書が人々に大きな影響を与えるのを見るのは、本当に嬉しいこと。犯罪者だった人が生き方を全く変える。聖書には生き方を変える力がある。ですから開拓奉仕を再開したいといつも思っていた。その後妻が亡くなった。私は全時間奉仕を再開すべきだと思った。それで、1998年に開拓奉仕を再開した。96歳になった。エホバが毎日、健康と力を与えてくださっていることに感謝している。これからも一生懸命奉仕していく。)